

---

# 生天目健蔵理事長への追悼

---

## 生天目さんとの出会い

農林漁業金融公庫理事 畑中 孝晴

生天目さんに初めてお目にかかったのは私が畑作振興課長時代の昭和55年の秋、いも類懇談会の席上だったと思います。当時、既に70歳を越えておられましたが大変お元気で「課長、この頃の農林省はいものことなど忘れてしまったのかね。少しも力を入れてないではないか」と大きな声でまくし立てられ、人並以上におしゃべり人間の私もその迫力に圧倒される思いでした。

その後、諸類会館の活用をめぐる度々お目にかかりましたが、いつも弁護士としての緻密な論理と例のおとぼけの語り口との狭間で右往左往させられたものでした。しかし、方向が決まると実に迅速に事を進められ、58年12月後任の吉田課長の時に現在の「財団法人いも類振興会」が誕生しました。

この協会をつくって頂いたお蔭で地味ないもの世界にあっても定期的に情報誌が発行され、世に出る機会の少ない論文等が刊行されるようになりました。中でも「おいも全書」などは大変ユニークで、協会でなければ出来ない本だと感心させられました。

生天目さんは戦前戦後を通じて弁護士として、また経営者として多方面でご活躍になりましたが、農業分野では異色の方でした。最後まで協会の機関誌に健筆を振っておられま

したが、農業の世界にどっぷり浸っている私共とは物をみる角度が違うので毎号楽しみながら勉強させて頂きました。

昭和60年秋に勲章を授与された時には、「いやー、こんなことは……」と照れくさそうに頭をかいておられた村夫子然とした姿も忘れ難いものがあります。理事長とはいっても長年無給同様でお務めを頂き、4年程前には故郷の茨城県金砂郷村に立派な公民館を寄付される等、明治生まれの生きざまをみる思いでした。

最近はこちらの巾広い経歴と強烈な個性を持った方が少なくなってきたのは寂しい限りです。生天目さんからみれば子僧っ子のような私でも、財団改組への糸口をつけてくれたからと退官した後も近況報告に来られたり、ご馳走になったりと何かと心くばりをして下さいました。お付き合いは10年を越えましたが、私には到底把え切れない方でした。

心からご冥福をお祈りいたします。

## 異なった角度から“いも”を

財団法人いも類  
振興会専務理事 秋元 喜弘

いも類振興会創立以来、また前身の財団法人諸類会館を含め、長年にわたり理事長であった生天目健蔵氏は平成5年11月22日、肺炎のため87歳で逝去いたしました。ここに生前の御交誼に対し厚く御礼申し上げます。

故理事長は堅実・地道をモットーとして会を運営し、農作物また食品として重要ないも